



2020・6・21

第 377 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 街頭での訴えに安倍政権への怒り次々

### 野党は本腰で共同し政権獲得を

【青森県／青森県九条の会】青森県九条の会は 16 日、青森市の新町商店街で、「安倍 9 条改憲 NO！改憲発議に反対する全国緊急署名」を広げる宣伝・署名署行動に取り組みました。

どしゃ降りの雨がびたりとやみ、太陽が顔を出し始めたころ、「安倍 9 条改憲は戦争への道」の横断幕を掲げ、宣伝開始。参加者 19 人が通路に並び、「安倍 9 条改憲発議阻止」「憲法を生かす国にしよう」とよびかけました。

「安倍首相がやろうとすることは、必ず裏があるし、決して私たちのためじゃない。安倍が早く辞めないで日本は終わる」。署名した後、目をつり上げ、大きな声で語る女性（70 代）。その女性の大きな声に足を止めた高齢の女性が話の輪に入り、「んだ、んだ」とうなずき、「わ（私）も」とペンを握り、署名しました。

すすんで署名した男性（48）は、「安倍独裁に怒りしかない。公明党も信用できない。野党は本腰を入れて、市民を味方につけ政権を取ってほしい」と力を込めました。

### 首相が改憲は「目の前の課題」と！

17 日閉会した通常国会では、衆院憲法審査会は自由討議を 1 回だけ、参院では 1 回も許しませんでした。自民党は国民投票法改定案の成立を突破口に改憲論議入りをめざしたが、果たせませんでした。

自民党の新藤義孝・与党筆頭幹事は「憲法の議論を深める役割を果たせなかった」と野党批判。参院では日本維新の会が林義正審査会会長の指導力不足と不信任案を提出、与野党の反対で否決の場面も。

安倍首相は 12 日の記者会見で、改憲について、「各派、各党の皆さんの御意見を伺いながら進化させていきたい」が「国会の憲法審査会における条文案をめぐる論議は、残念ながら今国会においても全く進みませんでした。今、目の前にある課題を決して先送りすることなく解決していく、これが私たち政治家の責任」などと語っています。国民は、改憲を「目の前にある課題」などと見てはいません。

手を緩めない追撃が求められています。

この日は、スーツ姿の現役労働者が多く立ち止まり、「安倍きらい」「憲法変えちゃだめ」など、思いを伝えて署名。

宣伝には、社民党の上上武志県連代表、日本共産党の斎藤美緒県書記長も参加しました。

## 野党代表も安倍退陣に力こめ

**【札幌市中央区／STOP 安倍政治！中央区実行委員会】** 札幌市中央区のSTOP 安倍政治！中央区実行委員会は、このほど地下鉄西 28 丁目駅前で行いました。4 月 6 日以来の再開です。

立憲民主党の村上裕子市議は、安倍政権が隠ぺいに隠ぺいを繰り返し、揚げ句の果てには、コロナ感染の中でも賭けマージャンをしていた黒川検事長の定年延長を画策したと批判。「安倍首相は一日も早く退陣を」と訴えました。

新社会党の木山誠二札幌圏書記長は、安倍首相が国会で自衛隊員の子どもの声を持ち出し、憲法に自衛隊を明記する必要を主張したが、「いつ誰が言ったのか」との質問に答えられず、調べてみると 30 年も前の話だったと指摘。「30 年も前の話を持ち出して改憲をたくらむ安倍首相は、許すことができません」と力を込めました。

日本共産党の小形香織市議は、感染防止策が後手後手に回り、「安倍政権の姿勢を根本的に変える必要がある」と語りました。

## 各地で決意新たに活動再開

次期国会に向けさらに活動強化へ

**【東京都小金井市／9 条の会・こがねい】**

毎月 3 日の「安倍政治を許さない」のスタンディングは 4、5 月は取り止めに。そのコロナ騒動で「桜を見る会」他が見えにくくなり、国民の気持ちを理解できないコロナ対応に「コロナでも安倍政治を許さない」と意思表示をした方が良かったのでは…。でも自粛中だしとモンモンとしていました。

そのただ中に検察人事の私物化を狙う「検察庁法改正案」が浮上し、検察OBや著名人の反対の声に呼応し、5 月 17 日に武蔵小金井駅前で行いました。声かけが前日だったのに 32 人が集まり、通りがかりの人も足を留めたり、何よりも参加者のやって良かったの声！ みんな腹を立てていたんです。翌々日「今国会の成立断念」の報道にヤッターという気持ちでしたが、なんとこれには、渦中の人物のコロナ自粛中の賭け麻雀発覚で辞任というお粗末なおまけがついたのでした。秋の国会でもあきらめないよ、私達は！

(中町 O 「九条の会・こがねいニュース」No173)

## 安倍首相への風あたりは相当なもの

**【大阪府寝屋川市／寝屋川市 9 条の会等】** 新型コロナウイルス感染拡大で中断していた「寝屋川ナインデー宣伝」(大阪府寝屋川市)が 9 日、再スタートしました。京阪寝屋川市駅周辺 3 ヲ所地域 9 条の会を中心に行われ、20 人が参加。改憲発議に反対する全国緊急署名と核兵器廃絶署名が 28 人分集まりました。

スタンディングで、「コロナでお困りのことはありませんか」「もう限界！安倍首

相」「黒川検事長、賭け麻雀で辞任、退職金6千万はアカン」「カジノは中止を、その予算をコロナ対策に」「コロナ時代、都構想もカジノもいらない」とアピール。

参加者はマイクで「緊急事態宣言は解除されたものの、コロナ収束にはほど遠いどころか、自粛の影響は国民生活悪化に大きくのしかかってきています」と指摘。「アベノマスクも10万円支給も届かず、コロナ関連事業は安倍首相のお友だちや大企業が食い物にする疑惑が発覚。国民の怒りは爆発寸前です」と訴えると大きな共感が寄せられました。

若い子ども連れの女性が「安倍（首相）は大嫌い」と署名するなど連続して声がかけられました。参加者からは「安倍首相への風あたりは相当なものを感じた」との感想が寄せられました。

### 待っていたこの日に参加者も活気

【奈良県／九条の会奈良県ネットワーク】《平城9条の会奈良》平城9条の会奈良は9日15時から、高の原駅前でスタンディングをおこないました。暑い日でしたが10人が参加。「#国民投票法案に反対します」「賛否両論の平等なテレビCM、新聞広告、看板、チラシ、郵便物、ネット規制を求めます」の横断幕をあらたに掲げて通行人に関心をもってもらいました。

近くにある学校の中学生が横断幕やプラスターなどをじっと読んでメモをしていました。以前も中学生が「アッ、憲法や」と関心を示しました。今月11日、憲法審査会が野党欠席のまま、強行開催されるとの情報！コロナ禍がまだ続いており、10万円や

休業給付金の支給が遅れているなど、第2波にむけての緊急の課題が安倍政権に求められています。国民の多くは憲法審議を求めています。

《生駒9条の会》憲法改悪反対、核兵器廃絶、コロナ禍・弱者を救え、人種差別を許さない、「アベ・トランプ政治を許さない」生駒駅（スタンディング）行動を再開！

9日は21名が参加しました。新型コロナのため5月末まで行動は中止していましたが、6月から再開。6月9日の急な連絡でしたが21名も参加しました。コンコースに21名が1列になって、片手にプラカードを、片手に横断幕（全5枚）をもって並びました。人数が多いので、隊列の長さは約40M。ときどきマイクでこのデモンストレーションの目的、アベ政治の悪行の数々について訴え。（九条の会奈良県ネットワーク）

### 高校生らが積極的に署名

【宮崎県／憲法と平和を守る宮崎県連絡会】宮崎県連絡会は9日、宮崎市のデパート前交差点で改憲発議に反対する緊急署名に取り組みました。新型コロナウイルス感染拡大に配慮し3ヵ月ぶりの行動で、教職員OB九条の会、新日本婦人の会や県革新懇などから9人が参加。3人交代で安倍政権による9条改憲阻止などを訴えました。

退職教員の男性が「若者や自衛隊が戦争に連れていかれないように憲法9条を守れの署名活動をお頼みしています」と呼びかけると、2人組の高校生は「わかりました」とそれぞれ署名しました。男性は「特に詳しい説明はしていないが、さっとペンを執ってくれたのでうれしい」と話しました。

## コロナの前に武器は役に立たない

【徳島県／九条の会徳島】 九条の会徳島は9日朝、徳島駅前の国道交差点でスタンディング宣伝行動を行いました。

「憲法9条改憲許すな！」「守ろう9条、生かそう憲法」の横断幕や、「アイ・ラブ憲法」「守ろう憲法」の黄色いプラカードを掲げアピールしました。

路線バスの運転手が窓をあけ大きく手を振るなど多くの声援が寄せられました。

北島町の女性（67）は「憲法ができて75年。戦争体験を語り継ぐなど、憲法を守る大切さをみんなで再認識する機会をつくりたい」と語りました。

河村洋二事務局次長は「コロナ禍は『核抑止力論』の無力さを浮き彫りにした。コロナの前では核も武器も役には立たない。世界は戦争へと争うのではなく、協力しないとこの危機は乗り越えられない」と強調。「検察庁法改定案を止めて、国民の声で政治は変えられることを示した。憲法も世論の力で守り抜きたい」と力を込めました。

### 朝日新聞・和歌山が紹介

## 「九条の会・わかやま」400号に

「九条の会・和歌山のホーム・ページに掲載されている会紙「九条の会・わかやま」がこのほど400号を迎えました。33号から編集を担当している南本勲さんを朝日新聞・和歌山が取材した記事を掲載しています（6月13日）。以下はその要約です。

× × × ×

「九条の会・わかやま」の会紙が400号を迎えた。創刊から14年、日本国憲法9条

をめぐる時事問題や、戦争放棄・戦力不保持・交戦権否認をめざす市民の動きを月2～3回、うまずたゆまず報じてきた。

「当紙400号に!!」白抜き文字が躍る400号は5月25日発行した。1面には弁護士金原徹さんの「県下で9条を守る運動に取り組む人びとに貴重な情報を提供し、『みんな頑張っているんだ』という励ましを与えてくださっています」などお祝いの言葉を掲載。

05年9月に農協組合長や僧侶、建築家らが会見して「九条の会・わかやま」の結成を発表した。翌年5月「わかやま」は県内の46団体と一緒に、「九条の会」を呼びかけた一人で作家の澤地久枝さんを招いて、「平和のつどい」を県民文化会館で開く。2千席の会場から人があふれる盛況だった。

ところが「つどい」を報じたのは一部のメディアのみ。朝日新聞は掲載しなかった。これに「わかやま」のメンバーは怒った。「メディアが黙殺するなら私たちが伝えよう」。こうして06年6月20日に第1号がうまれた。

以降、月に2～3回の頻度で発行した。全国各地や県内の大小集会の告知と報告、識者の講演録、映画評、書評、憲法をめぐる世論調査結果や政治の動きを載せてきた。

南本さんの編集方針は「うちはこのことをしているよ」と知らせあう交流の場と、「こうしたらうまくいくよ」と知恵を出しあう場とする二つ。「県下のどんな小さな動きでも伝えていきたい」と話す。

会紙の配信を希望する人は氏名を記入して柏原さん(kashisgr@gmail.com)へ。